

「地盤工学・実務シリーズ22 軽量土工法」の正誤表について

社団法人 地盤工学会 事業部

本年6月に発行いたしました「軽量土工法」につきまして、下記のとおり誤りがありました。下記のように訂正してお詫び申し上げます。なお、この件についてのお問合せは、地盤工学会事業部までお願い申し上げます。

実務シリーズNo.22「軽量土工法」正誤表

2005.9.13

ページ	行	誤	正														
目次	1.2	地盤の軽量土と軽量化技術	地盤の軽量化技術と軽量土														
5	↑6	地盤の軽量土と軽量化技術	地盤の軽量化技術と軽量土														
5~9	はしら	地盤の軽量土と軽量化技術	地盤の軽量化技術と軽量土														
13~14	↑1~↓7	まず、①については・・・可能性がある。	インデントを2文字前に詰める														
23	写真-2.2のキャプション	マッドバランス	マッドバランス														
26	↓2~3	イソシアネート成分(I液)とポリオール触媒、整泡剤、水等を混合したポリオール成分(R液)の2液を混合して、	イソシアネート成分とポリオール触媒、整泡剤、水等を混合したポリオール成分の2液を混合して、														
26	↓11~13	現場発泡硬質ポリウレタンフォーム軽量盛土・ウレタンLH工法で定めている硬質ウレタンフォームの単位体積重量と圧縮強さを示す。	現場発泡硬質ポリウレタンフォーム軽量盛土工法の単位体積重量と圧縮強さを示す。														
26	表-2.2	右記に差替え <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>仕上がり密度</td> <td>0.35±0.05~0.40±0.05kN/m³</td> </tr> <tr> <td>設計単位体積重量</td> <td>0.35~0.40kN/m³</td> </tr> <tr> <td>圧縮強さ標準値</td> <td>120kN/m²以上</td> </tr> </table>	仕上がり密度	0.35±0.05~0.40±0.05kN/m ³	設計単位体積重量	0.35~0.40kN/m ³	圧縮強さ標準値	120kN/m ² 以上									
仕上がり密度	0.35±0.05~0.40±0.05kN/m ³																
設計単位体積重量	0.35~0.40kN/m ³																
圧縮強さ標準値	120kN/m ² 以上																
30	↑4	0.33~0.40kN/m ³	0.35~0.40kN/m ³														
44	↑1~2	発泡ウレタンの単位体積重量、圧縮強さの基準値は0.40kN/m ³ 、150kN/m ² 以上である。	発泡ウレタンの単位体積重量、圧縮強さの標準値は0.35~0.40kN/m ³ 、120kN/m ² 以上である。														
45	図-2.11	exps	*xps														
49	図-2.18	固化材	安定材														
		マサ土	まさ土														
		シラス	しらす														
54	図-2.27	$P_c=362.2\text{kN/m}^2$	$p_c=362.2\text{kN/m}^2$														
60	表-2.18の発泡ウレタンの数値	目標単位体積重量 γ (kN/m ³) 0.4 目標一軸圧縮強さ q_u (kN/m ²) 150以上	目標単位体積重量 γ (kN/m ³) 0.35~0.40 目標一軸圧縮強さ q_u (kN/m ²) 120以上														
79	↓4, ↓8	D_e	D_o														
80	↑3	2)アキレス株式会社:ウレタンLH工法・技術マニュアル(第5版), 2003	2)現場発泡硬質ウレタンフォーム土工法・技術マニュアル(第5版), 2003.														
88	式3.14中	∂e^p	∂e^p														
88	↑6	m_{rs}	m_{rs}														
89	↓7	ϵ^p	ϵ^p														
94	式3.30中	ϵ^p	ϵ^p														
95	式3.33中	ϵ^p	ϵ^p														
119	↑1	発砲ビーズ	発泡ビーズ														
121	図-3.33	$l=2400$	$l=24000$														
141	図-4.12	プレキャストL型擁壁	プレキャストL形擁壁														
147	↑5	γ_w :流動圧(水圧相当)	γ_w :水の単位体積重量														
151	図-4.22(b)	踏掛け板	踏掛板														
168	図-4.47の縦軸および基準値の単位	t/cm ³	g/cm ³														
191	図-4.70の右側のフローチャート	「地震時補強対策で対応可能か?」の右側矢印	「地震時補強対策で対応可能か?」の右側矢印は、上方向に伸びるだけ														
		「大規模地震への対応が必要か?」の右側矢印	「大規模地震への対応が必要か?」の右側矢印は、下方向の「壁体構造の設計」に矢印がつながる														
223	↓9の46)参考文献	1999	1998														
268	図-6.3	118	1:1.8														
		$\sigma=6\text{kN/m}^3$	$\gamma=6\text{kN/m}^3$														
269	表-6.1	右記に差替え <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td></td> <td>空気量 (%)</td> <td>セメント (kg/m³)</td> <td>気泡材 (kg/m³)</td> <td>練混水 (kg/m³)</td> <td>希釈水 (kg/m³)</td> <td>単位体積重量 (kN/m³)</td> </tr> <tr> <td>配合</td> <td>63.0</td> <td>353</td> <td>2.23</td> <td>218</td> <td>31.2</td> <td>0.6</td> </tr> </table>		空気量 (%)	セメント (kg/m ³)	気泡材 (kg/m ³)	練混水 (kg/m ³)	希釈水 (kg/m ³)	単位体積重量 (kN/m ³)	配合	63.0	353	2.23	218	31.2	0.6	
	空気量 (%)	セメント (kg/m ³)	気泡材 (kg/m ³)	練混水 (kg/m ³)	希釈水 (kg/m ³)	単位体積重量 (kN/m ³)											
配合	63.0	353	2.23	218	31.2	0.6											
272	図-6.6	$l=2400$	$l=24000$														
283	図-7.2	上越47D-Bx	上越47C-Bx														
304	図-7.22	$\gamma_t=0.6\text{t/m}^3$	$\rho_t=0.6\text{t/m}^3$														
322	図-8.11	修正神戸海洋気象	修正神戸海洋気象台														